



おひざのうえで

(副園長の子育ておうえん通信 2月号)



「育つことの素晴らしさ」

せんりひじり幼稚園

副園長 安達 かえで

先日は、発表会をご参観いただきありがとうございました。

当日も生き生きとした演技を見せてくれていましたが、発表会の当日だけでなく、劇や演奏をつくりあげていく途中の様々なやり取りが、子どもの育ちに繋がっています。もっと面白くしたいから、「ここんこの言い方を変えたい」とか、「ここで、こんな音を入れるのはどう?」とか、踊りの動きをみんなで考えたり、面白いアドリブを入れてみたり、先生がうっかり間違えたら、「そことちがうよ」と逆に教えてくれたり、「先生、音出して!」と合図の音を催促したりと、まさしく劇を作り上げていく**主役**になっています。

当日、体調を崩して欠席した子の代わりに急遽代役をかって出たり、みんなのせりふや劇の流れを全部覚えていて、次の場面はどうなるかを把握していてさっさと準備したり、次の出番の子に教えてあげたりする姿も見られましたね。まるでちびっこ**副担任**がいるみたいです。本番は緊張もしているけれども、自信をもって生き生きと演じる姿はとても頼もしく感じました。そんなこんな、ふとしたときに見られる子どもの育ちに感動します。

先日は、長野県のこども園協会に呼ばれて、講演にいつてきました。題目が、「若手の育ちを支える同僚生」なので、現場の若手保育者を育てる小野寺あつ子先生と、育てられる山田知実先生と一緒に来てもらって、それぞれの立場からも話をしてもらいました。また、ワークショップ研修もさせてもらいました。終わってからも現場の先生方の悩み相談に、二人は引っ張りだこでした。また、先月の「保育ナビ」という乳幼児教育誌のトップページに、せんりひじりの人材育成のことが取り上げられ、若手保育者が育つ現場として全国的に注目をされています。若手の保育者を育てるのは子どもを育てるのと同じ。肯定的に見守りながらゆっくり育つのを待ちます。子どもも大人も主体的に生き生きと育っていく姿を傍で見ることができることは、最高の喜びです。人が育つということは素晴らしいことです。

.....

(おひざのうえで2月号) ご意見や感想があれば是非お書き下さい

(組) ()